

今回の多文化共生セミナーには関係者を含め約130名の参加があり、盛会の内に終了しました。

詳しい報告については私達、熊本市国際交流振興事業団でインターン生として共にこの多文化共生セミナーの運営にあたった熊本県立大学文学部 馬原杏奈さん、戸田千晴さん、熊本大学教育学部 松尾幸輝さん、山崎詩穂さんが基調講演・パネルディスカッションを聞き、若い感性で何を感じ、考えたか書いてくれました。今後の多文化共生社会を担う大学生達が感じた率直な感想と意見です。

《基調講演について》

～ドイツの移民政策「課題と展望」～

この講演を通して、ドイツと日本の移民政策の取り組み方の違いを具体的に知ることができました。ドイツでは積極的に移民政策を進めていこうとしている一方で、日本は移民受け入れの姿勢をあまり見せていません。移民政策にはさまざまな利害が存在すると思いますが、ドイツはヒトラーの時代の戦争の教訓などから移民や難民を受け入れる貢献活動を積極的に行っており、各市町村の一般市民の方々がボランティアとして彼らを積極的に受け入れようとしていると感じました。

今日のドイツにはさまざまな移民が存在します。南欧移民労働者、EU加盟国の人々、EU以外の国から来独した専門職人とその家族、外国人留学生、ユダヤ系の移民から亡命申請者や自国より追放された方のような難民まで、来独する理由は多岐に渡ります。このような移民をどうやってドイツ社会に統合させるかは、ドイツ経済の発展にもつながってくると思います。ドイツ社会への統合において、まず若者の移民に焦点を当ててみます。

ドイツの移民政策では、少年や専門職を持たない人々に社会に統合させるというものが目標の一つとして挙げられています。また、移民の若者向けの教育・就職相談窓口を設置し、若者への支援を積極的に行っています。こういった若者への支援活動を行うことにより、少子高齢化社会であるドイツの生産年齢人口数を若い世代の移民によって増やすことができ、人手不足の解消に繋がったり、若い世代の人々の新しい、奇抜なアイデアなどもドイツ社会に取り込んだりすることができるため、ドイツ社会・経済は移民によって発展させることができるのではないかと思います。また若い世代の移民がドイツ社会の中で生活し、そこで結婚して子供を授かるとさらにまた若い世代の人口増加に繋がっていき、少子化問題も緩和されていくと思います。

次はドイツの高齢化社会問題に焦点を当ててみます。ドイツも日本と同様、深刻な少子高齢化問題を抱えています。だからこそ移民を受け入れて介護職人数を増やすことも大切であると思います。またドイツは日本と同様、年金シ

ステムが導入されているということが紹介されました。移民労働者が増えることによって納められる税金も増えていくため、最終的にはドイツの福祉政策に税金を回していくことができると思います。移民を受け入れるということは、長い目でみると、非常に高齢化問題の手助けになるものであります。

移民政策を積極的に行うことによってドイツは経済も今なお発展しており、介護問題にもしっかりと向き合う姿勢をとっていますが、難民の受け入れにおいてもドイツはさまざまな支援を行っているということを知りました。具体的には、難民としてドイツにやってきた人々のために建設法を改定したり、戦争によるトラウマを抱えている人々の心のケアを行ったりしているということ、また難民の受け入れは市町村ごとに行われているということなどが挙げられます。このようなドイツの奉仕精神は日本人も見習うべきものであると思います。しかしそれと同時に難民問題はドイツでは非常に深刻な問題になりつつあります。2016年度のドイツでの難民統合における支出は約100億から300億ユーロの見込みとなっており、ドイツの実力を超えた数の難民が流入しているのが現状であるということを知りました。市町村レベルでの受け入れにお

いても、難民の数が今は限界に達しているそうです。数多くの難民が世界には存在し、その一部分の人々をドイツは受け入れようとしています。まずは自国の経済状況・国民を優先し、経済を安定させようとして難民受け入れ・支援活動を行っていかねば難民を受け入れること自体ができなくなってくると思います。難民が増え続ける原因は紛争などによるものであり、それを解決していく

ことが難民問題を解消していくための一番の近道だと思えます。これはかなり難しい課題です。ドイツだけではなく各国ごとに自分たちができることを考え、難民支援活動を行っていくことが大切になってくると思います。

このようにドイツの移民政策における課題や、それに対する取り組みを詳しく知ることができ、日本にはないドイツの考え方を学びました。日本は移民受け入れに非常に消極的で、外国人への社会統合政策も不十分です。それには島国特有の外国人に対する先入観がまだ根強く残っているという理由も少なからずあると思います。しかし少子高齢化問題に歯止めをかけるためにも移民政策を積極的に行っていかなければ、日本人だけでこれからの日本社会を支えていくことは将来的には困難になってくると思います。ドイツの移民政策を少しずつ取り入れる姿勢をもつことが、これからの日本社会を支える大切なことになると思います。



《ドイツ総領事 イング・カールステン氏による基調講演の様子》